

北海道豊富高等学校

課程 全日制
学科 普通科
生徒数 87名

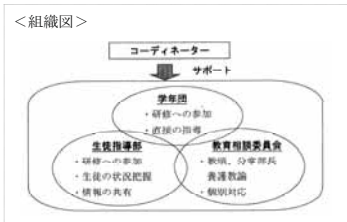
1 取組の特徴

- ①人間関係形成能力やコミュニケーションスキルを育成するためのトレーニングとしての集団カウンセリングの実施（質の向上）
- ②集団カウンセリングで培ったコミュニケーションスキルを活かす機会を確保するための学校教育活動全体での取組（量の確保）
- ③学級環境適応調査による生徒の学級満足度や適応状況の客観的な把握と、分析結果を用いた教育活動への効果的な活用（アセスメント）

2 取組のねらい

社会性や規範意識に乏しく、望ましい人間関係を主体的に構築できない生徒が近年、増加傾向にある。このことから、次の2点を本事業の取組のねらいとした。

- ①幼少期より形成された固定化された人間関係の改善
- ②望ましい人間関係を構築するための人間関係形成能力やコミュニケーションスキルの育成



3 取組の経過

- | | |
|--|---|
| <p>4月・構成的グループエンカウンター実施
①LHR（学年開き）②宿泊研修
・コーディネーターによる集団カウンセリング（ピア・サポート）の実施
・教科授業（家庭基礎）での実践
※グループ中心の言語活動の実践</p> <p>5月・教科授業（情報A）での実践
※グループ中心の言語活動の実践</p> <p>6月・パートナーティーチャーによる授業参観と教育相談の実施（第1回）</p> <p>7月・学級環境適応調査の実施（第1回）</p> <p>8月・集団カウンセリング研修会への参加</p> <p>9月・パートナーティーチャーによる授業参観と教育相談の実施（第2回）
・集中力を高めるトレーニングの実践（毎週月曜日のSHR）</p> <p>10月・コーディネーターによる集団カウンセリングの実施</p> | <p>10月・学校環境適応調査の実施（第2回）
・集中力を高めるトレーニングの実践（毎週月曜日のSHR）</p> <p>11月・生徒・保護者・教員が参加するシンポジウムのグループ別討論会の実施
・校内研修会（第1回）
※学級環境適応調査の分析と活用</p> <p>12月・教科授業（情報A）での実践
※グループ中心の言語活動の実践
・集団カウンセリング研修会への参加
・校内研修会（第2回）
※学級環境適応調査の結果を活用した教科指導
・パートナーティーチャーによる授業参観と教育相談の実施（第3回）</p> <p>2月・学級環境適応調査の実施（第3回）
・新年度に向けての取組の検討と準備</p> |
|--|---|

4 取組の内容

(1) 集団カウンセリング

- ア 日時 平成23年4月19日（火） LHR
イ 対象 1学年（28名）
ウ ねらい 生徒たちが互いに思いやり、助け合い、支え合う人間関係を育み、他者をどう思いやるかについて学び、コミュニケーションスキルの向上を図る。



エ 内容 エクササイズ「共同絵画」 講話（写真）

(2) 教科授業での実践（情報A）

- ア 日時 平成23年5月23日（月）25日（水）31日（火）
イ 対象 1学年（28名）
ウ ねらい 構成的グループエンカウンターの実施により培われたコミュニケーションスキルを活かす機会を確保することで、スキルの定着と向上を図る。

エ 内容 問題解決学習「砂漠の遭難」

(3) 学校行事での取組（地域との連携「生徒・保護者・教師のシンポジウム」）

- ア 日時 平成23年11月5日（土）
イ 対象 1～3学年（72名）
ウ ねらい 集団カウンセリングで培った人間関係形成能力やコミュニケーションスキルを活かす機会を確保し、スキルの向上と定着を図る。
- エ 内容 基調講演（国立公園サロベツについて）
グループ討論（地域の活性化について）

※参加者：本校生徒72名、保護者18名、地域住民16名、講師4名、教員12名

5 次年度に向けて

(1) 成果

- ア 中途退学者及び不登校生徒数の推移
中途退学者は5名から0名に、不登校生徒数は5名から1名に減少した。
- イ 学級環境適応調査の結果
対人的適応の4因子すべてが上昇し、生活満足度も4ポイント増加するなど、生徒の学級適応感は望ましい水準にあると考える。
- ウ その他の指標による評価
保護者対象の学校評価項目において、生徒の学校や学級への適応を図る項目について6～8割は好意的な評価がなされ、取組の成果が現れている。
- エ 生徒の変容した姿
生徒の学校への信頼感や帰属意識が高まり、集団としてのまとまりがでてきている。また、グループワークを取り入れた授業実践でも、生徒それぞれが役割を認識し、主体的に活動する姿勢が顕著になった。特に、学校生活における規律の遵守や身だしなみなどの社会性や規範意識の高まりが、保護者の学校評価アンケートから顕著である。

(2) 課題

- ア 予防的・開発的教育相談の取組の効果を測るためには、入学直後にアセスを実施する必要がある。
- イ 望ましい人間関係の構築のためには、人間関係形成能力やコミュニケーションスキルの育成について3年間を見通した計画的な実施が必要である。
- ウ キャリア教育の視点で学校教育活動を見た場合、予防的・開発的教育相談の取組の位置づけが明確でない。
- (3) 次年度に向けて
ア 入学直後にアセスを実施し、年間3回行うアセスの分析結果を校内研修会等で報告し、生徒理解の一層の充実を図る。
イ 予防的・開発的教育相談の取組について、3年間を見通した年間計画を立案する。
ウ キャリア教育年間計画における予防的・開発的教育相談の位置づけを明確にする。